

## 藤沢市の三大谷戸における市民団体の緑地への関わり方

早川尚吾<sup>1</sup>・杉浦克明<sup>2</sup>

1 日本大学大学院生物資源科学研究科

2 日本大学生物資源科学部

**要旨:** 藤沢市には三大谷戸と呼ばれる場所があり、それぞれの谷戸で市民団体による緑地保全活動が行われている。しかし、更なる市民活動の推進や市民参加による関連計画の拡充が必要とされている。そこで、本研究の目的は、三大谷戸における市民団体の活動の現状を踏まえ、活動推進のために必要な事柄を検討することである。その結果、地権者、市民団体、行政との協働での活動実施もみられたが、多くのケースにおいて市民団体がそれぞれ独自の活動を展開していることが明らかとなった。また、活動への課題点は会員の高齢化による作業の非効率化が挙げられ、活動資金の援助、植物調査等の推進、市との連携を求める意見がみられた。これらの結果から、今後緑地保全の活動推進を強化していくためには、行政、地域住民、市民団体の協力は欠かせない。

**キーワード:** 藤沢市, 三大谷戸, 谷戸, 市民団体, 緑地保全活動

**The relationship between citizen groups and green spaces in three major valleys (Yato) in Fujisawa**Shogo HAYAKAWA<sup>1</sup> and Katsuaki SUGIURA<sup>2</sup>

Graduate School of Bioresource Sciences, Nihon University, 1866 Kameino, Fujisawa, Kanagawa 252-0880, Japan 1

College of Bioresource Sciences, Nihon University, 1866 Kameino, Fujisawa, Kanagawa 252-0880, Japan 2

**Abstract:** Green conservation activities are performed by citizen groups in three major valleys (Sandai-yato) in Fujisawa, Kanagawa. However, the further promotion of citizen activities and the expansion of related plans by citizen participation are required. Therefore, the purpose of this research is to grasp the situation of citizen group's activities in three major valleys (Sandai-yato) and to examine what is necessary to promote their activities. Consequently, activities were also conducted in collaboration with landowners, civil society organizations, and city administrative offices. However, in many cases, they had developed their activities by each citizen group. Challenges to the activities were inefficient work by member's aging, insufficient assistance for activity funds, promotion of plant investigation, and cooperation with the city administration. From these results, cooperation between the administration, residents, and citizen groups is indispensable for strengthening the promotion of green space conservation activities.

**Key-word:** Fujisawa, three major valleys, valley (Yato), citizen group, green space conservation activities

**I はじめに**

神奈川県藤沢市は、県の中央南部に位置する人口約43万人の都市(5)であり、市域を南北に貫流する引地川や境川によって形成された谷戸が存在している。谷戸(やと)とは小規模な谷底低地を持つ谷状の地形で(1)、地域によって呼び方が異なる。藤沢市では、遠藤笹窪谷戸、石川丸山谷戸、川名清水谷戸を三大谷戸としている(2)。これらの保全については、「藤沢市市政運営の総合指針」をはじめ、「藤沢市緑の基本計画」と「藤沢市都市マスタープラン」において、重点施策として位置づけられている(4)。

藤沢市における優先すべき自然環境保全などの施策に関する内容には、三大谷戸などの谷戸の保全が挙げられ

ており、フィールドでの市民活動の推進や市民参加による関連計画の拡充が求められている(11)。一方、市民活動団体の活動に関しては、環境教育の場の少なさ、市民啓発活動の不足と懸念、団体間の意見の不一致などが課題として挙げられている(6)。

そのため、三大谷戸での市民団体の活動実態を明らかにし、谷戸への関わり方を分析することは、緑地保全に関連する計画の策定の参考となるだけでなく、市民団体による保全活動の改善と発展につながる可能性がある。

そこで、本研究の目的は、三大谷戸における市民団体の活動の現状を踏まえ、市民団体の活動推進に必要な事項を検討することである。

## II 三大谷戸の概要

まず、遠藤笹窪谷戸は藤沢市の西北部地域に位置し、面積は約24.3haの緑地である(2) (図 - 1)。ここは、小出川が高座丘陵を侵食したことで出来た地形で、土地利用は主に樹林、湿地、造成地となっている(3)。この谷戸には隣接する緑地があり、これらの空間をあわせて「健康の森」と呼んでいる。この場所は、恒久的に保全しつつ都市機能の集積を図ることを目的としており、面積は約33haである(3) (図 - 1)。

石川丸山谷戸は、藤沢市の中央に位置し善行駅の北西約1.5kmにある面積が約19.4haの緑地である(2) (図 - 2)。2つの谷戸が合流する複雑な地形である。ここは、2009年9月15日に谷戸の一部が「神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例」に基づく里地里山保全等地域に選定されている(7)。



図 - 1. 遠藤笹窪谷戸 (左) と健康の森 (右)

Fig. 1 Endo-sasakubo valley (Yato) (left) and health forest (right) 出典：遠藤笹窪緑地保全計画より一部改

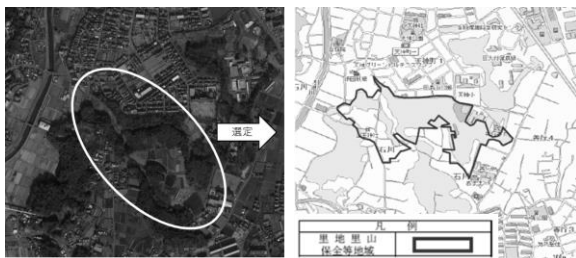


図 - 2. 石川丸山谷戸 (左) と里地里山等区域 (右)

Fig. 2 Ishikawa-maruyama valley (Yato) (left) and Satoyama landscape area (right)

出典：GoogleEarth (左)、神奈川県 (右) より

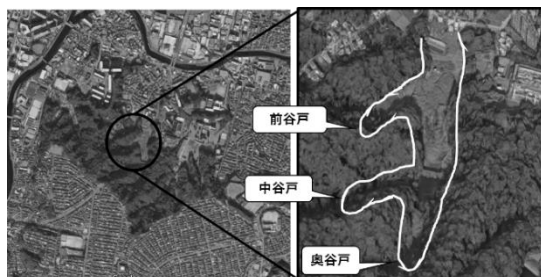


図 - 3. 川名緑地 (左) と川名清水谷戸 (右)

Fig. 3 Kawana green space (left) and Kawana-shimizu valley (Yato) (right) 出典：Google Earth 一部改

川名清水谷戸は、藤沢市の南部に位置し藤沢駅の南東約1.2kmにある面積が約17haの緑地である(2)。三浦層群池子層が基盤となっている地形で、前谷戸、中谷戸、奥谷戸と呼ばれる3つの枝谷戸がある(図 - 3)。隣接の緑地を含めると面積は約32haあり、この地域を川名緑地と呼んでいる(1)。

## III 方法

2018年7月12日に藤沢市職員へ三大谷戸で活動を行っている市民団体に関する聞き取り調査を行った。次に、藤沢市や市民団体のホームページに記載されている資料、記念誌、広報誌による文献調査を行った。また、各市民団体の方への聞き取り調査を行った。これらのことから、三大谷戸を対象とした市民団体の自然保全活動、環境教育、市民啓発に関する内容を整理した。

## IV 結果

調査の結果、三大谷戸において緑地保全活動を行っている市民団体の数は異なっており、遠藤笹窪谷戸では5団体、石川丸山谷戸では2団体、川名清水谷戸では2団体であった(表 - 1)。それぞれの谷戸で活動している市民団体の活動目的と内容については以下に述べる。

表 - 1. 三大谷戸で保全活動を行っている市民団体

Table 1 Citizen groups conducting conservation activities in three major valley (Yato)

	遠藤竹炭の会 NPO法人藤沢サンクチュアリ
遠藤笹窪谷戸	NPO法人里地里山景観と農業の再生プロジェクト 藤沢探鳥クラブ 遠藤郷土づくり推進会議
石川丸山谷戸	丸山谷戸援農クラブ 石川丸山ホテル保存会
川名清水谷戸	川名里山レンジャー隊 川名自然フォーラム

### 1. 遠藤笹窪谷戸

健康の森区画内は、1987年に藤沢市が策定した「健康と文化の森」構想に基づき、慶応義塾大学看護医療学部等の施設の誘致と谷戸底の造成が行われてきた(10)。そのような中で、1993年に藤沢探鳥クラブ有志によるオオタカの調査が開始された(10)。1995年にはオオタカの営巣が確認されたことを契機に、谷戸奥の埋立てが回避された(10)。2001年に谷戸底の客土部分に看護医療学部が開設された。この時期に、遠藤まちづくり推進協議会の趣旨に沿った遠藤地区の活性化を目的に遠藤竹炭の会が発足し、市民団体による竹林の整備が開始された。

現在、健康の森区画内で保全活動を実施している5つの市民団体は、自然環境保全と自然環境を活かした地域

活性化を目的に2012年7月に設置された「健康の森管理運営協議会」への参画を行い、各団体が各エリアの保全活動を行っている(3)。それら5つの団体のそれぞれの活動内容について以下にまとめる。

遠藤竹炭の会は、遠藤地区の地域活性化を目的としたボランティア団体であり、伐採した竹から、竹炭、竹酢蒸留液、せっけん等の製品を作り、遠藤地区のイベントでこれらの販売を行っていた。NPO法人藤沢サンクチュアリは、広範囲な緑地の保全活動を実施していた(9) (表-2)。NPO法人里地里山景観と農業の再生プロジェクトは、地域資源でもあるヤマユリの活用と里地里山の風景を後世に伝えていくことを主に活動を行っていた。この団体は、残された里山の自然景観を多くの人に楽しんでもらうための施設「藤沢えびね・やまゆり園」を2015年度に開園し、その運営管理を中心に活動を行っていた(8)。園の活動経費は入園料で賄っており、2018年度には園の面積が約20%広がり8,500㎡となっている。その施設への来園者数は3年間で計12,526名であった(8)。

表-2. 藤沢サンクチュアリが実施している保全活動

Table 2 Conservation activities of Fujisawa sanctuary group

	2016年度	2017年度
自然保全整備作業回数	72回	59回
伐採処理した竹	603本	2,286本
木の伐採	422本	223本
草刈, ササ刈, アン刈延べ面積	36,871㎡	30,032㎡
従事者人員	300名	318名

藤沢探鳥クラブは、月3回の順応的管理を重要視した湿地環境の保全活動を行っている(10)。遠藤郷土づくり推進会議は、地域の意見の集約と方向性を行政に提案するとともに、地域の特性に応じた事業計画の立案と実施を行う会議体である。その会議体内の自然環境部会が、健康の森付近の清掃や他の市民団体の援助をしている。

これらの5つの団体協働でのイベントも実施しており、親子を対象とした植樹体験を中心とした「遠藤わくわく体験フェスティバル」を実施していた。

## 2. 石川丸山谷戸

1979年以降に考えられてきた一般廃棄物処分場の計画の中止を機に、2005年に丸山谷戸援農クラブが発足し、休耕田の復元と共に不法投棄の多かった谷戸の美化活動が開始された。また、石川丸山ホテル保存会は地域住民で構成されており、里地里山保全等地域内における活動協定認定団体に指定されている。両団体共に活動目的は絶滅の危機に瀕した天然ホテルの保全のための里地の再生であり、地権者と市民団体が協働で活動を展開していた。年間約100回の活動を行っており、実施時間は1日約2.5時間となっている。活動内容は、水田耕作、畑耕

作、竹林整備、山林整備、梅林整備、河川水路の整備、シイタケ栽培、草刈、里山等整備活動となっていた。ここでは、ボーイスカウトの年間活動にて田植えや稲刈りを実施しており、児童の教育の場としての利用もあった。

## 3. 川名清水谷戸

川名清水谷戸には、1957年より谷戸を縦断する形での横浜藤沢線と呼ばれる道路計画がある(1)。この計画の見直しを求めため1992年に地元の有志によって「川名清水谷戸を愛する会」が発足した(1)。その後、日本大学生物資源科学部の学生との関わりが生まれ、活動が学生主体で行われるようになったことを機に2001年に「川名里山レンジャー隊」に名称を変更した。この団体は、大学機関や谷戸を活用した実体験に重きを置いた活動内容となっていた(表-3)。また、谷戸探検と呼ばれる環境教育活動を2017年度までに、小学校で58回、公民館で17回、子ども会で5回実施されており、公募型の地域住民対象の谷戸探検も8回実施されていた。

川名自然フォーラムは、2005年の谷戸開口部の住宅建設を背景に発足した市民団体である(1)。2018年度は代表の退任により活動が休止となった。この団体は、2017年度までに外部講師の講演会を42回、自然観察会を31回実施し、川名緑地以外の場所や施設も活用した市民意識の啓発を主とした活動内容となっていた(1) (表-3)。

表-3. 川名清水谷戸で実施されている保全活動

Table 3 Conservation activities of Kawana-shimizu valley

(Yato) by citizen groups

川名里山レンジャー隊
・年間5回の谷戸探検と呼ばれる環境教育活動
・月1回実施する谷戸の整備および農作業
・学部祭を活用した豚汁販売での利益の寄付
・定期的な緑地内の観察の記録
川名自然フォーラム
・施設を用いた講演会
・自然観察会
・川名里山基金を活用した募金活動による寄付
・生物調査および谷戸内の温度調査

## 4. 三大谷戸における活動団体の活動比較

遠藤笹窪谷戸では、地域活性化を軸としており、販売や植樹が特徴としてある。石川丸山谷戸では、天然ホテルの保全のための里地の再生を目的に活動を展開しているため、河川の整備や水田耕作に重きが置かれている。川名清水谷戸では、両団体ともに都市開発問題を発端とした長期的な活動の展開と土地取得や緑地保全に向けた行政への働きかけを実施していた。三大谷戸で共通してみられた活動内容は教育であり、児童の育成の場としての活用がみられた。遠藤笹窪谷戸と石川丸山谷戸の市民団体は、年間の活動日数が多く、行政、地権者、市民団

体が協働で活動を実施していたのに対し、川名清水谷戸の市民団体では協働での実施が進んでいなかった。

## 5. 課題点と要望

遠藤笹窪谷戸では、地区の活性化を目的とした竹炭やえびねやまゆり園の実施にあたり、予算の問題、人員の確保を課題として挙げている。他にも、行政からの補助金等の援助や植物の調査等の推進を求めている。石川丸山谷戸では、会員の高齢化による作業の非効率化を課題として挙げている。また、県だけでなく市からの補助金の要望もあった(12)。今後の方向性として、行政に対して保全の計画の公開と協働での里山保全を求めている(12)。川名清水谷戸では、川名自然フォーラムが、諸活動の企画と運営にあたり主に活動を行っているメンバーの高齢化や健康上等の理由により、従来ほどの活動が困難であることが課題にある。また、市民団体間で情報共有がなされていないことも課題としてある。さらに、地権の問題によって、2006年度より市からボランティア団体の谷戸への立入の自粛が求められていることも課題である。

## V. 考察

本研究の結果から、地権者、市民団体、行政との協働での活動の実施もみられたが、多くのケースにおいて市民団体が独自の活動を展開していることが明らかとなった。今後、緑地保全をより推進していくためには、協働での管理作業や市民団体への支援が重要であると考えられる。

遠藤笹窪谷戸での市民団体の活動は都市開発が発端ではなく地域活性化を軸としており、地域外の人を対象とした活動も開始している。そのため、地域住民の地域環境に対する理解や関心は高まっているものと推察される。石川丸山谷戸では、ホテル保全のため休耕田を水田に還元し、環境教育の場としての利活用もみられているが、まだ保全計画が出ていない。よって、一刻も早く保全計画における市民団体参画の提示が求められる。川名清水谷戸では、市や県が保全策を打ち出すまでの暫定措置として、ボランティア団体による谷戸への立ち入りが、市から禁止されている。そのため、他の谷戸に比べて川名清水谷戸の市民団体が管理作業を推進していくことは難しく、その影響で年間活動日数が少なかったと推察される。一方で、行政や市民への緑地に対する理解や関心の向上を図ることを目的に、市民啓発や環境教育が重視されてきたことが考えられる。

三大谷戸で保全活動を行っている市民団体からは、補助金等の援助、植物の調査等の推進、保全の計画の公開が求められている。さらには、会員の高齢化による作業の非効率化もあることから、今後より行政や地域との連

携や支援が不可欠である。三大谷戸での保全活動において市民団体の活動内容が異なるのは、地域環境、団体の発足背景、活動目的、行政や市民の理解や関心の違いによるものといえ、今後も市民団体の活動実態をもとに緑地保全の管理方法を随時見直していく必要があるだろう。

## 引用文献

- (1) 有賀正義・大谷房江・岸一弘・木平勇吉・野村順治・津邦子編著 (2016) -川名自然フォーラム 10 周年記念誌 川名清水谷戸の自然 - . 川名自然フォーラム
- (2) 藤沢市 (2011) 藤沢市緑の基本計画.  
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/midori/machizukuri/kankyo/shizenhogo/kihonkekaku.html> (2016年6月29日参照)
- (3) 藤沢市 (2017) 遠藤笹窪保全計画.  
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/seihoku/documents/hozenkekaku.pdf> (2018年7月12日参照)
- (4) 藤沢市 (2017) 藤沢市環境基本計画.  
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kankyou-s/machizukuri/kankyo/kekaku/kekakukaite.html> (2017年10月7日参照)
- (5) 藤沢市 (2017) 数値でみる藤沢市の概要.  
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/bunsho/shise/gaiyo/shokai/gaiyo.html> (2017年10月10日参照)
- (6) 藤沢市 (2018) 藤沢市生物多様性地域戦略一生きものの恵みを軸とした藤沢のまちづくり - . 資料編 22-23
- (7) 神奈川県 (2018) 里地里山保全等地域の選定及び里地里山活動協定の認定の状況.  
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/n8f/cnt/f300562/p335127.html> (2018年10月30日参照)
- (8) 内閣府 (2018) NPO 法人里地里山景観と農業の再生プロジェクト.  
<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/014003058> (2018年10月30日参照)
- (9) 内閣府 (2018) NPO 法人藤沢サンクチュアリ .  
<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/014003617> (2018年10月30日参照)
- (10) 笹窪谷便り (2018) 遠藤笹窪谷の自然と保全管理.  
<https://www.sasakuboyato.net/> (2018年9月12日参照)
- (11) 島田正文・八色宏昌 (2012) 神奈川県藤沢市におけるビオトープの保全・再生・創出のための人材育成方策に関する事例研究. 環境情報科学学術研究論文集 26: 399-404
- (12) 高尾徹 (2017) 神奈川県における里地里山活動認定団体の実態と課題. 日本大学生物資源科学部森林資源科学科卒業論文 : 44pp